2026年12月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年11月12日

上 場 会 社 名	株式会社和心	上場取引所	東
コ ー ド 番 号	9271	URL	https://www.wagokoro.co.jp/
代　　表　　者	(役職名) 代表取締役	(氏名)	森　智宏
問合せ先責任者	(役職名) 取締役CFO	(氏名)	斎藤　順一　(TEL) 03-5785-0556
配当支払開始予定日	―		

決算補足説明資料作成の有無　　：有
決算説明会開催の有無　　：無

(百万円未満切捨て)

１．2026年12月期第３四半期の連結業績（2026年１月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第３四半期	2,642	30.6	731	62.8	695	53.2	620	32.9
2025年12月期第３四半期	2,023	27.5	449	41.4	453	50.3	466	47.2

(注) 包括利益 2026年12月期第３四半期　620百万円(32.9%)　2025年12月期第３四半期　466百万円(46.4%)

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第３四半期	84.86	71.57
2025年12月期第３四半期	72.68	61.09

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第３四半期	2,951	2,206	73.9
2025年12月期	1,865	1,267	66.4

(参考) 自己資本 2026年12月期第３四半期　2,180百万円　2025年12月期　1,239百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	―	0.00	―	0.00	0.00
2026年12月期	―	6.00	―		
2026年12月期(予想)				6.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無　　：　無

３．2026年12月期の連結業績予想（2026年１月１日～2026年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,600	29.3	900	58.7	850	60.1	700	△0.8	92.20

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無　　：　有

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更　　：　有

新規　　１社（社名）　エス・ティー・エヌ伊豆株式会社　、除外　　―社（社名）

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：　有

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：　無

②　①以外の会計方針の変更　　：　無

③　会計上の見積りの変更　　：　無

④　修正再表示　　：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年12月期３Ｑ	8,551,524株	2025年12月期	6,511,724株
②　期末自己株式数	2026年12月期３Ｑ	117,842株	2025年12月期	―株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2026年12月期３Ｑ	7,308,177株	2025年12月期３Ｑ	6,419,406株

※　添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー　：　無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料「１．当四半期決算に関する定性的情報（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益及び包括利益計算書 …… 6
第３四半期連結累計期間 …… 6
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 7
（継続企業の前提に関する注記） …… 7
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 7
（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用） …… 7
（セグメント情報等） …… 8
（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 9

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第３四半期連結累計期間におけるわが国経済は、社会・経済活動の正常化が進み、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな持ち直しが見られました。一方で、米国政府による関税政策の変更をはじめとする通商政策の動向や、各国の経済政策の変化等を背景とした世界経済の不確実性が高まっております。加えて、中国経済の動向や日中外交関係の変化等に伴う中国からの訪日客数の変動が国内景気に影響を与える可能性があり、また、物価上昇や中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要があり、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループの属する小売・サービス業界は、アフターコロナにおいて消費者の購買行動が順調に回復する中でも、食材価格や労働力不足による人件費上昇など、収益性の改善については厳しい状況が依然として続いております。また、2026年１月～９月の訪日外客数は約3,073万人となり、昨年に続き２年連続で９月までの累計は3,000万人を超えており（出典：日本政府観光局（JNTO））、インバウンド需要は順調に推移しております。このような経済環境の下、当社は「日本のカルチャーを世界へ」を経営理念に、「日本文化を感じるモノを作り販売する」事業を中心としたインバウンドMD事業及びその他事業の強化に引き続き取り組みました。個人消費や国内観光の回復や訪日外客数の増加を背景に、来店客数も増加（前年同期比26.9%増）しております。

当第３四半期連結累計期間においては、来店客数が前年同期比26.9%と増加したため増収となりました。出退店につきましては、当第３四半期連結累計期間においては、出店は10店舗あり、当第３四半期連結累計期間末の店舗数は合計45店舗（前連結会計年度末比10店舗増）となりました。一方で、店舗関連費用の削減に取り組み、販売費及び一般管理費は1,182,045千円（前年同期比20.5%増）となりました。

その結果、当第３四半期連結累計期間の経営成績は、売上高2,642,223千円（前年同期比30.6%増）、営業利益は731,321千円（前年同期比62.8%増）、経常利益は695,633千円（前年同期比53.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は620,137千円（前年同期比32.9%増）となりました。

各セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

（インバウンドＭＤ事業）

インバウンドMD事業においては、訪日外客数の増加を背景とした既存店の好調に加え、当第１四半期より連結子会社化したエス・ティー・エヌ伊豆株式会社が、静岡県伊東市の「道の駅伊東マリンタウン」内等で運営する店舗が収益に寄与いたしました。

出店につきましては〔かんざし屋wargo〕を３店舗と、〔北斎グラフィック〕を４店舗、〔箸や万作〕を２店舗、〔１円着物wargo〕を１店舗出店しました。当第３四半期連結会計期間末における店舗数は、〔かんざし屋wargo〕17店舗（前連結会計年度末比４店舗増）、〔The Ichi〕0店舗（同1店舗減）、〔北斎グラフィック〕17店舗（同４店舗増）、〔箸や万作〕７店舗（同２店舗増）、〔１円着物wargo〕３店舗（同１店舗増）、〔MUSUMUSU〕１店舗（同±０）、合計45店舗（同10店舗増）となりました。その他、ネット通販、OEMサービス等も行っております。

その結果、インバウンドＭＤ事業の売上高は2,463,601千円（前年同期比31.1%増）、セグメント利益は876,814千円（前年同期比47.8%増）となりました。

（その他事業）

その他事業においては、静岡県を中心に空き家をリノベーションした不動産賃貸業及び宿泊施設を運営しております。

その結果、その他事業の売上高は180,692千円（前年同期比23.3%増）、セグメント利益は36,598千円（前年同期比70.5%増）となりました。

（２）財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて725,207千円増加し1,796,335千円となりました。これは主に現金及び預金が545,938千円増加、商品が112,218千円増加したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて360,388千円増加し1,155,122千円となりました。これは主に有形固定資産が114,331千円増加、無形固定資産が227,431千円増加したことなどによります。

その結果、資産合計は、前連結会計年度末に比べて1,085,595千円増加し2,951,458千円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて1,907千円増加し438,698千円となりました。これは主に短期借入金が117,387千円減少し、未払法人税等が73,906千円増加したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて144,726千円増加し306,273千円となりました。これは長期借入金が144,726千円増加したことによります。

その結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて146,633千円増加し744,971千円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて938,962千円増加し2,206,486千円となりました。これは主に資本剰余金が347,323千円減少し、利益剰余金が1,162,717千円増加したことなどによります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年12月期通期の連結業績予想につきましては、当第３四半期連結累計期間において、経営効率の継続的な改善により、各段階利益が前回発表予想を上回って推移いたしました。

以上の進捗状況および足元の経営環境を鑑み、2026年５月14日に公表いたしました通期連結業績予想のうち、営業利益を9.0億円、経常利益を8.5億円、親会社株主に帰属する当期純利益を7.0億円に、それぞれ見直しております。なお、１株当たり当期純利益につきましては、新株予約権の行使に伴う株式数の増加を反映した結果、前回予想を下回る見込みとなっております。

また、当社は株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の一つと認識しております。今般の業績動向および資本効率の向上、ならびに経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するため、本日（2026年11月12日）公表いたしました「自己株式の取得枠設定に関するお知らせ」のとおり、自己株式取得の枠を設定することを決定いたしました。

なお、配当予想につきましては、現時点では１株当たり中間配当６円、期末配当６円の年間合計12円とする期初公表の予想を維持しておりますが、今後も業績の進捗状況やキャッシュ・フローの推移等を踏まえ、適切な利益還元に努めてまいります。

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	3,600	800	770	670	102.89
今回修正予想（B）	3,600	900	850	700	92.20
増減額（B-A）	―	100	80	30	―
増減率（%）	―	12.5	10.4	4.5	―
（ご参考）前期実績（2025年12月期）	2,783	567	531	706	109.71

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第３四半期連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	599,863	1,145,802
売掛金	118,273	165,216
商品	252,177	364,395
前渡金	27,014	38,662
その他	74,886	83,653
貸倒引当金	△1,088	△1,394
流動資産合計	1,071,128	1,796,335
固定資産		
有形固定資産		
建物	196,795	275,365
土地	98,028	126,962
建設仮勘定	―	1,628
その他	46,017	51,216
有形固定資産合計	340,840	455,172
無形固定資産		
ソフトウエア	3,269	2,695
のれん	―	228,006
その他	64	64
無形固定資産合計	3,333	230,765
投資その他の資産		
関係会社株式	80,465	77,503
敷金	139,032	183,167
繰延税金資産	166,572	166,572
その他	64,489	41,940
投資その他の資産合計	450,559	469,184
固定資産合計	794,734	1,155,122
資産合計	1,865,862	2,951,458
負債の部		
流動負債		
買掛金	60,400	76,188
短期借入金	175,737	58,350
１年内返済予定の長期借入金	24,000	19,274
未払金	107,673	139,916
未払法人税等	14,930	88,836
未払消費税等	―	7,939
前受金	21,550	17,523
預り金	8,895	15,346
賞与引当金	13,371	10,005
その他	10,231	5,316
流動負債合計	436,791	438,698
固定負債		
長期借入金	153,762	298,488
その他	7,785	7,785
固定負債合計	161,547	306,273
負債合計	598,338	744,971

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第３四半期連結会計期間 (2026年９月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	295,712
資本剰余金	967,465	620,142
利益剰余金	222,259	1,384,977
自己株式	―	△119,956
株主資本合計	1,239,725	2,180,875
新株予約権	27,798	25,611
純資産合計	1,267,524	2,206,486
負債純資産合計	1,865,862	2,951,458

（２）四半期連結損益及び包括利益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自 2025年１月１日 至 2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自 2026年１月１日 至 2026年９月30日）
売上高	2,023,580	2,642,223
売上原価	593,042	728,856
売上総利益	1,430,538	1,913,366
販売費及び一般管理費	981,213	1,182,045
営業利益	449,324	731,321
営業外収益		
受取利息	3,938	1,627
為替差益	―	818
受取遅延損害金	―	498
持分法による投資利益	12,264	―
その他	1,235	932
営業外収益合計	17,437	3,876
営業外費用		
支払利息	6,542	7,244
株式交付費	1,000	1,314
為替差損	384	―
持分法による投資損失	―	27,582
雑損失	4,908	―
その他	―	3,422
営業外費用合計	12,835	39,563
経常利益	453,926	695,633
特別利益		
固定資産売却益	190	―
持分変動利益	16,430	24,620
助成金収入	―	3,391
関係会社株式売却益	2,061	―
訴訟損失引当金戻入額	268	―
特別利益合計	18,950	28,012
特別損失		
固定資産除却損	―	3,745
特別損失合計	―	3,745
税金等調整前四半期純利益	472,877	719,900
法人税、住民税及び事業税	6,313	99,763
法人税等合計	6,313	99,763
四半期純利益	466,563	620,137
（内訳）		
親会社株主に帰属する四半期純利益	466,563	620,137
非支配株主に帰属する四半期純利益	―	―
四半期包括利益	466,563	620,137
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	466,563	620,137
非支配株主に係る四半期包括利益	―	―

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

前第３四半期連結累計期間(自　2025年１月１日　至　2025年９月30日)

１.配当金支払額

該当事項はありません。

２.基準日が当第３四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第３四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

３.株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動はありません。

当第３四半期連結累計期間(自　2026年１月１日　至　2026年９月30日)

１.配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額（千円）	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日	配当の原資
2026年８月13日取締役会	普通株式	50,455	6.00	2026年6月30日	2026年9月10日	利益剰余金

２.基準日が当第３四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第３四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

３.株主資本の著しい変動

当第３四半期連結累計期間において、新株予約権の行使により、資本金及び資本準備金がそれぞれ245,712千円増加いたしました。

また、2026年５月14日開催の取締役会決議に基づき、自己株式の取得を行った結果、自己株式が119,956千円増加いたしました。

上記のほか、2026年２月27日に繰越利益剰余金の欠損補填のため、資本準備金の額を593,035千円減少し、その他資本剰余金に振り替えるとともに、その他資本剰余金を繰越利益剰余金へ同額振り替えております。

主に以上の結果、当第３四半期連結会計期間末において資本金が295,712千円、資本剰余金が620,142千円及び利益剰余金が1,384,977千円並びに自己株式残高が119,956千円となっております。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第３四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

Ⅰ　前第３四半期連結累計期間(自　2025年１月１日　至　2025年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額（注１）	四半期連結損益計算書計上額（注２）
	インバウンドMD事業	その他事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,879,110	144,469	2,023,580	－	2,023,580
その他の収益	－	－	－	－	－
外部顧客への売上高	1,879,110	144,469	2,023,580	－	2,023,580
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	2,070	2,070	△2,070	－
計	1,879,110	146,539	2,025,650	△2,070	2,023,580
セグメント利益	593,402	21,459	614,862	△165,537	449,324

（注）１．調整額△165,537千円は、本社管理費であります。

２．セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間(自　2026年１月１日　至　2026年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額（注１）	四半期連結損益計算書計上額（注２）
	インバウンドMD事業	その他事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	2,463,601	178,622	2,642,223	－	2,642,223
その他の収益	－	－	－	－	－
外部顧客への売上高	2,463,601	178,622	2,642,223	－	2,642,223
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	2,070	2,070	△2,070	－
計	2,463,601	180,692	2,644,293	△2,070	2,642,223
セグメント利益	876,814	36,598	913,412	△182,091	731,321

（注）１．調整額△182,091千円は、本社管理費であります。

２．セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（のれんの金額の重要な変動）

「インバウンドMD事業」セグメントにおいて、当第１四半期にエス・ティー・エヌ伊豆株式会社の全株式を取得いたしました。当該事象によるのれんの増加額は235,868千円であります。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第３四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第３四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）、のれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
減価償却費	6,881 千円	15,821 千円
のれんの償却額	―	7,862

（収益認識関係）

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。